

# 住友別子病院ニュース

1

月号

隔月10日発行

## 新年のご挨拶



院長  
西本 健

内分煙も、皆様方のご協力により、実のあるものとなってきております。喫煙中の皆様におかれましては、禁煙支援外来をご活用いただき、是非とも早急に脱タバコに成功していただきたいと思っております。

地域活動としましては、看護週間、糖尿病週間行事、医療なんでも相談室など、イオン新居浜ショッピングセンター様のご協力をいただき開催することができました。皆様方からいただいたアンケートを参考に、より充実させていきたいと考えております。

昨年後半には、医師会の先生方のご協力により開放型病院となりました。患者様には、より利用していただきやすい病院になったと思っております。

また当院ではかねてより、がん診療には力をいれてまいりましたが、緩和医療チームにつづき、五大がん（胃・大腸・肺・乳・肝臓の各がん）を中心としたチーム（がんセンター）を結成し、チーム医療の取り組みを開始いたしました。がん診療に情熱をもった意欲のある医師が揃い、全国レベルの診療が行えているものと

自負しておりますが、更に充実させるべく努力いたしております。

がんの診断治療に有用な機器として、診断面では短時間で精度の高い診断能力を発揮するマルチスライスCTをいち早く導入でき、治療面ではCT画像と連動し、より安全で高精度な放射線治療が可能になりました。放射線治療装置に更新いたしました。高度な医療を提供する一方、医療事故防止・医療安全には、職員一同、心して取り組んでおります。坂出市立病院の塩谷先生にはお忙しいなかお越しいただき、十一月には研修会も開催できました。

また「医療相談」窓口も設置しております。医療の様々な問題に、皆様と協力して取り組んでいきたいと思っております。お気軽にご相談ください。

院内的には、「安心で信頼に込める医療を目指すMQI（医療の質改善）」活動を開始し、皆様方にとって安心で信頼できる医療機関であるよう研鑽しております。

時代は株式会社参入、混合診療解禁など、歴史に禍根を残す可能性のある医療制度改革が実行されようとしております。しかしそれらに惑わされることなく、当院としましては地域の中核医療機関としての役目を果たしていきたいと存じます。

病院ホームページも随時更新し、個人情報保護に留意しながら、適切な情報の開示もしてゆきたいと考えております。インターネットをされる方は時にはご訪問ください。（<http://www.sbn.gr.jp/>）

日本医療機能評価機構の認定を受けて、五年の更新審査の時期が近づいてまいりました。新居浜では唯一の認定病院として恥ずかしくない結果をだしたいと思っております。

暖冬が続いておりますが、今後寒くなるとお考えいただけます。重症急性呼吸器症候群（SARS）や鳥インフルエンザ等はいっ流行するかわかりませんが、警戒を怠らないようにしなくてはなりません。皆様もお体にお気をつけていただきたいと思います。

住友別子病院職員は、患者様の利益を最優先とし、知り得る正確な情報の提供に努め、自己決定をお助け、医療における社会的責任を果たしたいと考えております。そのためにも皆様方との緊密なパートナーシップを必要としております。今後とも、ご支援・ご鞭撻、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶と致します。



## 新しい 放射線治療の ご紹介



放射線科科長  
加藤 勤

放射線療法とは、主に腫瘍に対して放射線を照射し腫瘍を縮小あるいは消失させる治療法です。放射線を照射させる際に、できるだけ多くの放射線を腫瘍に照射し、逆に腫瘍の周囲へは線量（放射線の量）を少なくするように工夫します。しかし、従来はX線透視装置を用いて二次元的に放射線照射部位を計画していたために、どうしても腫瘍周囲の正常組織にもあ

る程度放射線が当たっていました。そのため、一九九〇年代後半よりCT装置を用いた三次元的放射線治療計画法が考案され、二〇〇〇年代に入り普及しつつあります。

三次元的放射線治療計画法を実現するには従来のリニアック（放射線照射装置・図1）以外に新たに以下に述べる三つのおもなハードウェアの導入が必要となります。

放射線治療専用CT装置（CTポート 図2）、CT像から三次元的放射線線量分布図（図3）を作成し、リニアックに照射方法を転送する治療計画装置、治療計画装置から送られてくる複雑な放射線照射野を実現させるための多重絞り（マルチリーフコリメーター 図4）の三つのハードウェアです。今回、リニアックを更新するに当たって、本院でも三次元的放射線治療を実現すべくこの三つのハードウェアを導入しました。

放射線治療に関しての主たる学会は「日本放射線腫瘍学会」ですが、学会が認定している四国における認定施設は八つあります。当院は東予地区では唯一認定されている施設であり、専門医も常勤しており放射線技師及び看護師も専任制を施行しています。放射線腫瘍学会ではホームページ上で、放射線

治療におけるガイドラインを広く公開しており、専門医名簿も閲覧できます（<http://jastro.jp/>）

当院では、このガイドラインに沿った標準的治療を原則としております。また、放射線治療に関するコンサルトに際してもセカンドオピニオンを含めて専門の医師が対応させて頂いておりますのでご相談下さい（窓口 放射線部受付）。



図 2



図 1



図 4

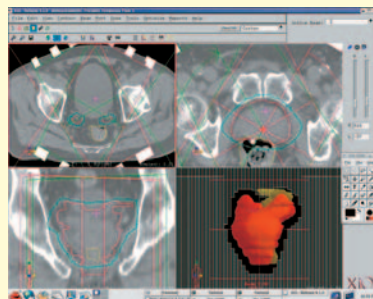


図 3



## ME室紹介



臨床工学室副主任  
近藤 浩二

### 背景

医療界だけにとどまらず一般社会における、医療事故防止に対する気運が高まってきている近年において、医療事故防止対策の一環として、医療機器適正操作の推進や維持管理の重要性を図る目的から、臨床工学技士による中央管理化（医療機器中央管理室の設置）が望まれていました。平成十五年四月に社（日本臨床工学技士会）が行った地域医療支援病院および地域がん拠点病院九二施設の医療機器中央管理室の設置状況は四〇％程度であり医療機器の適正管理

に対する対策は遅れ気味の状況にありました。そのような状況で、厚生労働省では平成十六年度医療施設整備助成事業に医療機器管理室施設整備が追加されました。

当院でも平成十五年十二月よりME室設置の為にME室設置検討委員会を設立し約半年に渡り検討を行い平成十六年八月より発足、同年十月より正式に運用の運びとなりました。

### MEって何？

MEとは（Medical Engineeringの略）医用工学のことをいいます。実際に病院内では、広義の意味で医療機器のことをME機器と呼んだり、医療機器の保守点検を行う臨床工学技士（Medical Engineering）のことを「MEさん」と呼んだりします。（当院では、まだMEさんと呼ばれてないかも…）当院での正式名称も臨床工学室（ME室）といえます。

### 臨床工学技士って何をする人？

「臨床工学技士」という職種についてお話しします。臨床工学技士とは、「生命維持管理装置の操作および保守点検を行う技術者」とのこととをいいます。

当院では、現在五名（育児休暇中一名含む）の技士で主に透析室における透析業務、集中治療室における急性血液浄化業務、ME室

における医療機器の中央管理業務を行っています。

院内でもかなり限定された場所での業務なので来院される患者様には馴染みの薄い職種だと思います。

（病院職員の間でも馴染みが薄かったりして…）これを機会に是非覚えて下さい（笑）

### 医療機器中央管理業務について

現在、輸液ポンプ、シリンジポンプ、酸素湿潤器、人工呼吸器、壁掛吸引器、透析装置など約二五〇台のME機器を管理しています。

おもな業務内容は病棟に貸出していた機器が返却されると、日常の点検や定期点検を行い、消耗部品の交換や故障箇所の修理を行っています。

### ME室のメンバー紹介

室長は、いつも多忙な診療部長の亀井先生、副室長は、透析と血液浄化業務で日頃よりご指導して頂いている透析室長の市川先生、室員は、集中治療室で業務の際にお世話になっている相坂看護師長さん、機器の貸出返却で毎日お世話になっている中央材料室の松木看護師長さんと看護師の中尾さん、それから今年入職したばかりの臨床工学技士一年生の藤原さん、機器のメンテナンスは正確で丁寧な技士の宮崎さん、透析業務の中心として頑張っている女性技士の

喜井さん、現在、育児休暇中の女性技士の近藤さん、最近オヤジくさくなったと言われる始めている私、近藤の以上一〇名です。

また、業務を始めて数ヶ月なので、至らないところもありますが、患者様をはじめ先生方や看護師さん達にも安心して使用して頂けるME機器を提供していきたいと日々、頑張っております。

これからも、ME室 スタッフ共々どうぞ宜しくお願い致します。

## 第2回 医療なんでも相談室開催！無料

『医療なんでも相談室』は、医療・看護・おくすり・栄養・介護・診療費など、なんでもお答えできるよう、当院の各関係スタッフが対応させていただきます。ちょっとした事でも気軽に相談できますし、血圧測定なども同時に開催しておりますので、是非お立ち寄り下さい。

尚、当日の相談をスムーズに行うため、電話での相談予約を受け付けておりますのでご利用下さい。

日時 平成17年2月17日(木) 13:30 ~ 16:00

場所 イオン新居浜ショッピングセンター1階 くすのき広場

相談予約受付 電話(0897)37-7133 地域行事企画室(医療連携室)  
担当: 古川龍二・和田美恵子



# 糖尿病センター 糖尿病週間 行事報告

十一月八日から十一月十四日は全国糖尿病週間。今年は、軽症糖尿病・予防と治療をテーマとして、全国で多くの行事が開催されました。厚生労働省の実態調査によれば成人の六人に一人が糖尿病およびその予備軍と言われ、誰にとっても他人事ではありません。

当院でも昨年と同様に、イオンショッピングセンターくすのき広場で十一月九日から十一月十三日までの五日間、糖尿病週間行事を行いました。当院のテーマは、「糖尿病にならないために」とし、十一月九日から十三日までポスターの掲示とパンフレットの配布。十一月十二日と十三日の十四時から十八時は、医師、薬剤師、栄養士、検査技師、看護師による各種相談、血糖測定、血糖測定、B.M.I値の測定などを行いました。二日間約二百名の方においでいただき、糖尿病予防についての関心を持っていただきました。糖尿病予備軍のチェックをし、



糖尿病になり易い要素がどれだけあるかをわかっていただいたうえで、糖尿病予防の生活改善の必要性を知っていただきました。糖尿病は放置すると血管が傷んだり、循環がわるくなったり、神経の働きにも障害が生じます。失明することもある、「網膜症」や、人工透析が必要となる「腎症」、手足に壊疽をおこすことのある「神経障害」などの怖い合併症が現れてきます。徐々に進行しながら命にかかわる病気を引き起こすため、高血圧、高脂血症、肥満とともに、「死の四重奏」と呼ばれています。糖尿病に気をつけることは、病気の予防に限らず健康な身体づくりにつながります。例えば家族に糖尿病（または糖尿病予備軍）の人がいたら家族全員で一緒に食事や運動に取り組みましょう。家族の絆も深まります。家族の健康づくりにもなり一石二鳥です。

住友別子病院糖尿病センターでは、今後とも地域に密着した活動を通じて皆様の健康管理に少しでもお役に立ちたいと思っております。今回の行事にご協力、ご参加くださいましてありがとうございます。

## 院内コンサート開催

平成十六年十二月十七日(金)リハビリセンターにおいて、第七回院内コンサートが開催されました。

この院内コンサートには、新居浜市立西中学校合唱部合唱隊によるすばらしい歌声を毎年聞かせていただいております。入院患者様を含め職員一同も大変楽しみにしている行事となりました。今回も全国大会でも合唱された、「春のガラス」をはじめ、「楽しい歌声」など全十曲をご披露いただきました。

ご来場の皆様には、西中学校合唱隊の心温まるやさしい歌声が、大変心地よい時間を与えてくれたのではないかと感じております。また、合唱終了後には西中学校合唱隊の皆様より、入院患者様が早く元気になるようにと、千羽鶴のプレゼントと気持ちのこもったお言葉を頂戴し大変感激いたしました。

楽しいひとときを作っていたいただきました西中学校合唱隊の皆様、本当にありがとうございました。



### 住友別子病院カレンダー

2005年 1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 <sub>30</sub>	24 <sub>31</sub>	25	26	27	28	29

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

○印は病院特別休診日

1月10日、2月11日、3月21日は休日ですが、通常どおり診療いたします。



# 医療相談窓口の開設について

当院では、昨年10月に医療相談窓口を開設しました。

この窓口では、入院や外来にかかわらず、病院をご利用される患者様(ご家族も含む)からのご意見やご要望、そして不安・不満を患者様の立場になって問題解決を図る相談窓口です。また、多様のご相談内容をヒントにして、医療の安全対策を見つめ直す場でもあります。

設置場所は、医事課(正面玄関横) 番窓口で、病院診療日の午前9時～午後5時まで受付しています。

ご相談事例を申し上げますと、

医師から症状の説明を受けたが、専門用語が多く、理解できなかった。

医療従事者に話を十分聞いてもらえない。

職員の言葉づかいや態度に不満がある。

受診中であるが心配なので転医をしたい。紹介状を書いてもらえるのか。

待ち時間がわかるようなシステムづくりをして欲しい。

などの内容を承っています。

また、病院施設や付帯設備に関しても、表示板、トイレ、洗面所、冷暖房、病室などアメニティにかかわる改善要望をいただいています。

このような、患者様の思いをお聞きして、患者様の代わりに院内関係部門やスタッフに報告を行い、早期な改善や対応を要請する機能を果たしています。

医療相談窓口に申し出を行ったから「不利益な扱いをされるのではないか。」と心配され、相談に来られない患者様も多いと思います。当院では、患者様中心の医療を実践しており、患者様の価値観や権利、人権を尊重した良質の医療サービスを提供できるよう努めていますので、患者様をご心配されるような不利益は決してありません。却って、患者様のご意見などが当院をより良くしていく財産ととらえて取り組みを進めています。

最後に、まだまだ不十分な体制で、対応者も不慣れではありますが、患者様の苦情などに対しては、単なる不満や愚痴として受け流すのではなく、病院あるいはスタッフに対する貴重な示唆・提言として受け止め、真摯に対応させていただきます。そして、医療相談窓口の存在が、患者様と病院との橋渡しを行い、相互の信頼関係を築く役割を果たすことができると願っていますので、皆様、お気軽にお越しくださいますようお願い申し上げます。

もちろん、ご相談は電話でも結構です。

医療安全センター

お問い合わせ先

医事課(医療相談窓口) TEL(0897)37-7116・7117



# 医療相談窓口

医療相談窓口は、当院をご利用される患者様、ご家族からのご意見、要望、不満などについて真摯に受止め、相談者の権利や利益を擁護する立場で、早期に解決を図るための相談窓口です。

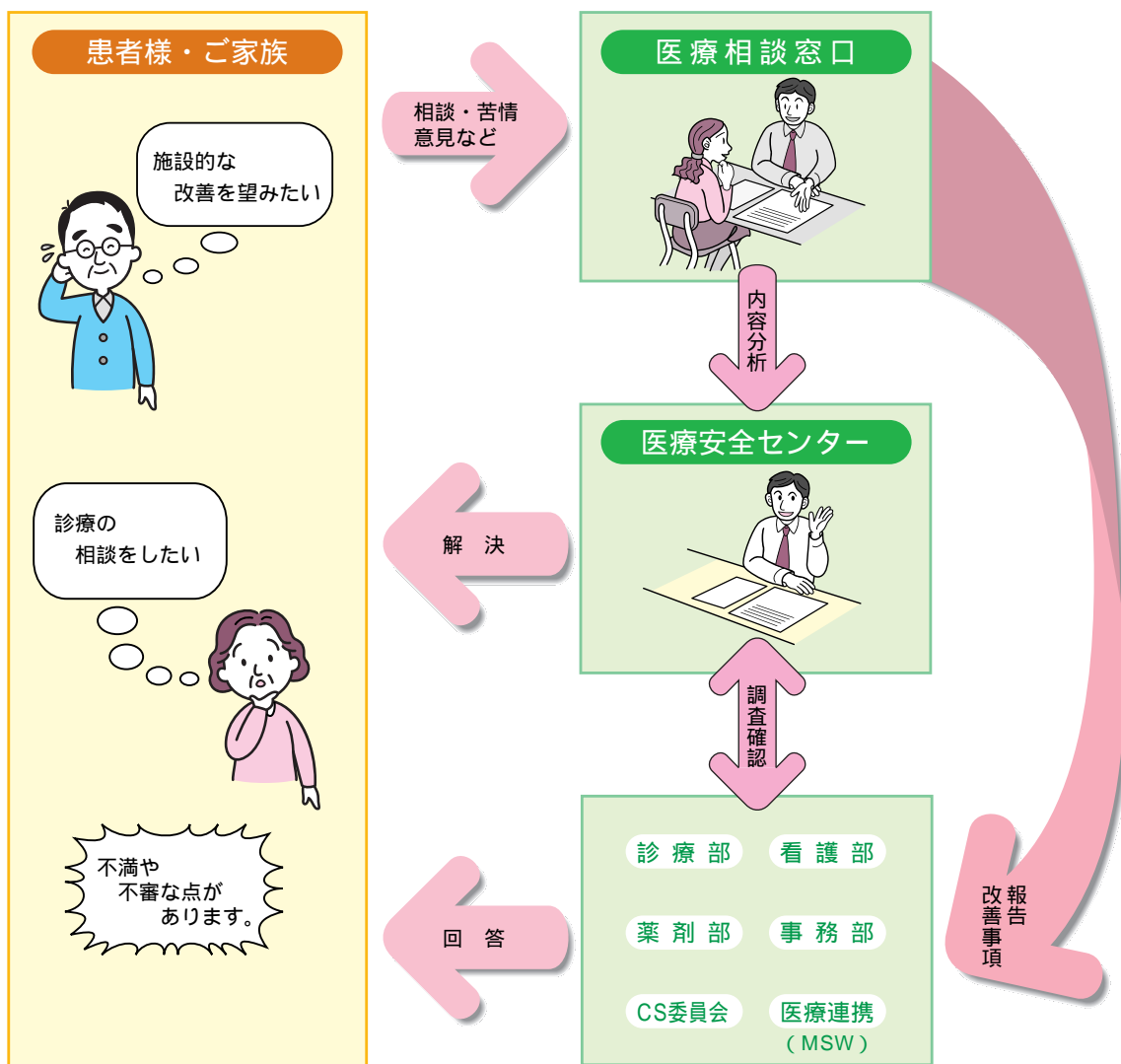
## 相談内容

受付時間：病院診療日の午前9時から午後5時まで

場 所：医事課 医療相談窓口

内 容：診療行為や医療設備他、病院に対しての苦情やご意見、提案など

## 《医療相談窓口のあらまし》



お問い合わせ先

医事課（医療相談窓口） TEL (0897) 37-7116・7117